

第2回は新聞と動画配信で

新型コロナウイルス感染拡大防止のため

3月8日(日)に第2回プレ未来会議を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会議は中止となり、本紙と動画配信に振り替えることとなりました。

動画では、第1回の振り返りと第2回で予定していた顕娃おこそ会観光プロジェクトリダーの加藤潤さんによる顕娃町の取り組みのお話、加藤氏・永山氏の東串良町に関する対談を収録しています(動画の視聴に関する案内は下記のとおり)。

顕娃町 官民が連携した観光まちづくり

顕娃町では、NPO法人顕娃おこそ会を中心とした観光地域づくりが行われており、10年前に首都圏より移住し観光施設(タツノオトシゴハウス)を始めた加藤氏が顕娃おこそ会に加わったことにより、その動きが加速しました。顕娃町では、まず民間でできること(ソフト事業)を先に行うことで、行政によるハード整備が促進されたという経緯がありました。



最後に、顕娃町での事例を踏まえたまちづくりのツボとして、①大きなことより、まず小さな実践を住民自らが始めること、②メディアでの発信により、地域外の人に知ってもらうこと、③行政マンを仲間に加え、計画段階から関与していくこと、の3点が効果的であったとの話がありました。

加藤氏・永山氏の対談では、第1回の会議で参加者から出された、まちの誇りと課題を紐解きながら、立地条件や産業・教育環境の面で顕娃町と類似する点を挙げた上で、移住者を迎え入れるために、人の集まる場をつくることとが重要といった議論がなされました。加藤さんいわく、まちの良いところを知ってもらうためには、まちの環境だけでなく「人」も知ってもらうことが大事で、人が集まれる場所と機会(イベントなど)の双方があることで、交流が活発になるとのことです。

また、観光や移住・定住といった地域外の人の力を借りる視点だけでなく、住民自らがやりたいことを実現しながら地域課題を解決していくことも重要という議論も上がりました。「やりたい人がやりたいことをやる」体制づくりを行うことで、少しずつまちの雰囲気を感じ上げながら、必要なタイミングで行政の後押しを受けるのが、これからの地域づくりでは重要なポイントであると締めくくられました。

まちと自分の暮らしの未来を描く

東串良町未来研究室

東串良町



未来会議新聞

令和2年3月●日
【発行】東串良町企画課
【協力】一般社団法人
鹿児島天文館総合
研究所Ten-Lab

町内外から40名以上が参加

令和2年2月23日(日)に東串良町保健センターにて町主催の東串良町未来研究室「第1回東串良町プレ未来会議」が開催されました。参加者は、町民や役員職員近隣の市町村の地域づくりに取り組む方など、総勢40名以上で、宮原町長も参加しました。



和やかな雰囲気です様子 = 保健センター

天文館総合研究所の永山氏より、日本と鹿児島県、東串良町の人口推移を紐解きながら、まちの未来を考える上で重要となる視点が見えられました。人口減少社会においては、税収の減少とともに地域の総合力の時代となるため、地域の様々な課題を自分たちで把握し、優先順位をつけて、自分たちでできることは自分たちで取り組むこと、最後に行政をうまく頼ることがポイントのお話がありました。

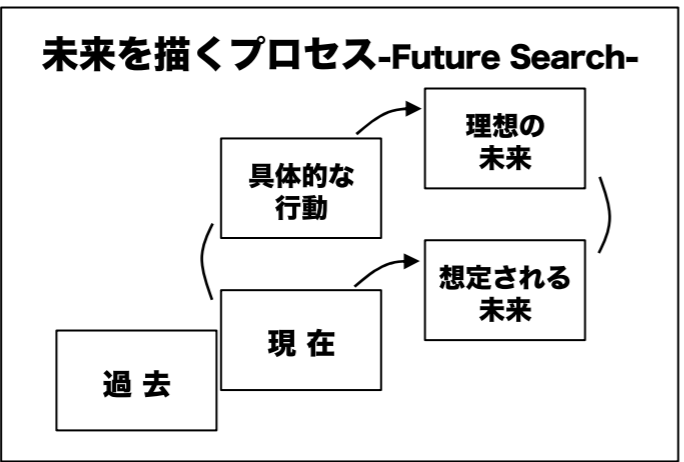
その後、参加者が4人1組に分かれ、まちの過去を知るといこうと、それぞれが今の自分に至る人生の転機となった出来事を共有しあいました。加えて、東串良の今として、まちの誇りと課題についても語り合いました。参加者は終始和やかな雰囲気、活発な意見交換が行われました。

第1回会議の終了時には、参加者に会議の感想と要望についてアンケートを取りました。その中には、「まちを見つめ直す良い機会になった」「色んな人と話すことができ楽しかった」といった前向きなご意見を沢山いただきました。町外の方からは、この場を経て東串良の未来を期待する声も見受けられました。

また、「第2回を楽しみにしている」との声が多く、「来年度の開催を期待している」との意見もありました。

来年度の本格開催を期待する声も

来年度の開催は確定ではないですが、東串良町としても、今年度プレ未来会議として開催した内容を、1年間のプログラムとして、「東串良町未来研究室」を立ち上げることを目標としています。加藤潤さんをはじめ、県内各地の地域づくりの実践者たちと一緒に、これまで交流する機会があまりなかった町民同士がつながる場として、やりたい人がやりたいことを宣言し、まちの人と楽しみながら、地域課題を解決していく道筋を、実践を通してながらつくっていきたいと考えています。



の過去と現在を語り合いました。

第2回は、新型コロナウイルスの影響により中止となりましたが、ただの中止では第1回での成果がもつたいないということで、本紙と動画配信という形で対応することとなりました。これらが参加予定されていた方々の、理想のまちの未来像やそのための具体的な行動を考えるためのきっかけとなれば嬉しく思います。

第1回プレ未来会議を開催

第1回会議で出された みんながおもう まちの「誇り」と「課題」

利便性

- 買い物難**
(身近にお店が少ない、閉店が早い、地区で差がある)
- 車が必須/公共交通が少ない**
(通院で困る、バスが通ってない所がある)

防災

- 被害想定が弱い**
(避難場所までの階段が高齢者に厳しい/今の想定だと柏原が危ない)
- 災害対策が弱い**
(備蓄基地の津波対策/唐仁地区の台風による道路冠水対策)

住環境・景観

- 空き家対策**
(提供できる物件がない/昔街だったところが発展しない)
- 道案内が難しい**
(役場までの道案内/通りに名前があると良い)
- 交流の場がない**
(喫茶店/人と出会う場)
- アートにふれる機会がない**
(美術館/映画館)
- 安全や景観へ配慮**
(住宅地に街灯が少ない、ソーラーパネルによる景観)

くらし

雇用

- 働く場がない**
(会社/仕事の種類がない、肉体労働以外の女性の働ける場)

産業

- 危機感がない**
(ピーマン、きゅうり、畜産、他の農業がない、担い手が家業に向き合っていない)
- 紹介できる仕事がない**
(移住してもらう人に進められる選択肢がない)

担い手

- 後継ぎがない**
(お店の後継ぎ、大体の人が町外に働きに出る、商工会募集してもこない)

はたらく

子育て基盤

- 施設/支援が不足**
(格差に対する対策、産婦人科や特別支援施設がない、一人で頑張るママが多い)
- 高校生同士が繋がらない**
(町内に高校がない、中学卒業後繋がりが急になくなる)

学びの環境

- 東串良をもっと知って欲しい**
(東串良の良さや地域課題を学ぶ場/町外の公園で遊ぶ)

支援体制

- 買い物支援**
(買い物を代行するところが一部しかない)

育てる・支える

課題

立地・地勢

- コンパクトなまち**
- 通勤が便利**
(鹿屋・志布志の中間)
- 災害が少ない**
(防災意識も高い)
- ロケットの打ち上げが見える**

自然・景観

- 田園風景**
(岩弘の水田/荒地が少ない)
- 柏原海岸**
- 空**
(朝日/夕焼け/星空)
- ルーピン**
- 山の上の風車**
- イルミネーション**

歴史・文化

- 郷土芸能**
(大相撲/奉納祭/棒踊り/鎌踊り)
- 唐仁古墳群**
- 下伊倉城址**
- 大塚神社**

お店・施設

- 豊栄商店街**
(ひっとべ館)
- 新しいお店が何軒かできた**
- 村山製油**
- 石蔵**
- 石油コンビナート**
- 空き店舗が少ない**

人

- 子供達が素直**
(親の仕事に誇りに/友達の親も覚える)
- 人の良さ**
(親切・優しい、人の繋がりを大事に)
- 人にすぐ会いに行ける**
- ご近所付き合い**
(挨拶や声掛け、親しみを持った会話)

まちの雰囲気

- ゆったり**
(心のゆとり、世の中の心配事が遠い)
- 絆が深い=ひっくら玉**
- ヒーリング**
(喧騒がない)
- 空気がおいしい**
- 車社会**
- 野菜をたくさんもらえる**

食

- 食の宝庫**
(海の幸/山の幸)
- ピーマン・きゅうり**
- 日本一の和牛**
- シラス漁の風景**

サービス

- 子育てしやすい**
(支援が充実/連帯感がある)
- 生涯学習が充実**
(価格/バリエーション)
- 病院**
(柏原に2つある)
- 石蔵**

誇り

第1回会議で参加者より挙げられた東串良町の「誇り」と「課題」をまとめました。「誇り」では人に関する事(人の良さや関係性)が特に多く、その他、まちの雰囲気(ゆったり・喧騒がない)、自然や景観(田園風景・柏原海岸など)、食(ピーマン・シラス漁など)、歴史・文化(伝統

芸能)に関する意見が目立ちました。「課題」では東串良でのくらしに関する意見が多く、買い物などの利便性や交流、アートに触れる機会などが挙げられました。その他、働く場や担い手がないこと、子育てや学びの環境に対する課題も多く挙げられました。